

令和元年度 授業改善自己評価(担任及び教科担任)

		評価基準									
		3 (そう思う)	2 (どちらかといえばそう思う)								
		1 (どちらかといえばそう思わない)	0 (思わない)								
番号	評価項目	評価 令和元年度 1学期		評価 令和元年度 2学期		評価 令和元年度 3学期		差 (%)	H30 3学期		
		平均(A)	%	平均(A)	%	平均(A)	%				
事前の準備や授業計画	1	● 2.7	88.9	● 2.6	85.7	● 2.8	91.7	4.2	87.5		
	2	● 2.7	88.9	● 2.3	76.2	● 2.6	85.7	2.4	83.3		
	3	● 2.2	72.2	● 2.4	81.0	● 2.5	83.3	2.3	81.0		
	4	● 2.8	94.4	● 2.6	85.7	● 2.9	95.8	0.6	95.2		
	5	● 2.7	88.9	● 2.7	88.9	● 3.0	100.0	0.0	100.0		
	6	● 2.2	72.2	● 2.0	66.7	● 2.4	81.0	4.8	76.2		
	7	● 2.2	72.2	● 2.1	71.4	● 2.3	77.8	-7.9	85.7		
	8	● 2.5	83.3	● 2.3	76.2	● 2.7	88.9	-6.3	95.2		
観察や記録	9	● 2.0	66.7	● 2.0	66.7	● 2.5	83.3	2.3	81.0		
	10	● 2.8	94.4	● 2.7	88.9	● 2.6	85.7	0.0	85.7		
	11	● 1.5	50.0	● 1.8	61.1	● 1.8	61.1	-0.8	61.9		
授業中の工夫や配慮	12	● 2.7	88.9	● 2.7	88.9	● 2.6	85.7	0.0	85.7		
	13	● 2.6	86.7	● 2.2	72.2	● 2.5	83.3	0.0	83.3		
	14	● 2.7	88.9	● 2.4	81.0	● 2.6	85.7	-4.8	90.5		
	15	● 2.5	83.3	● 2.7	88.9	● 2.7	88.9	-1.6	90.5		
	16	● 2.4	80.0	● 2.3	77.8	● 2.5	83.3	-7.2	90.5		
	17	● 2.8	93.3	● 2.3	77.8	● 2.5	83.3	2.3	81.0		
学習環境	18	● 2.6	85.7	● 2.7	88.9	● 2.9	95.2	7.7	87.5		
	19	● 1.9	61.9	● 2.0	66.7	● 2.0	66.7	6.7	60.0		
		● 2.4	81.1	● 2.4	78.4	● 2.5	84.6	0.3	84.3		

A=3 ●

3>A≥2 ●

2>A≥1 ●

1>A≥0 ●

令和元年度 授業改善自己評価についての考察

	1・2・3学期の評価を比較しての考察
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度の全体の評価84.3%が、今年度は84.6%と高い状況のまま0.3%上昇しているので、全体的に授業改善が進んでいると考えられる。昨年より下がったのは、番号7と8など6項目ある。また現状維持が4項目あるが、残りの9項目は上がっている。
事前の準備や授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内研究を進めてきたことで、飯塚市の教育施策とコミュニティスクールの取組を両輪に、思考力・判断力・表現力を育む授業改善が適切にできてきており充実してきた。 研究主題 「未来を拓く八木山っ子の育成 ～コミュニティスクールと飯塚市の教育施策及び「書くこと」の実践を通して～」 ○ 番号5の「『わたり』授業が円滑に進められるよう、2学年の学習活動のずらし方を工夫している。」が100%に、番号6「学習の流れが見える構造化した板書を工夫している。」が4.8%上がっている。複式学級における間接指導や知識構成型ジグソー法による協調学習に取り組んできたことが、結果として向上していると考えられる。 ● 番号7「1時間の授業の中に、児童が自分の考えをまとめる場を設定している。」が7.9%下がっている。また、番号8「1時間の授業の中に、児童が自分の考えを発表する場を設定している。」が6.3%下がっている。交流活動を工夫することで、児童のコミュニケーション能力・コラボレーション能力・イノベーション能力を育成したい。
観察や記録	<ul style="list-style-type: none"> ○ 番号9の「1時間の授業ごとに、学習用具の忘れ物や宿題チェック、発表の様子などの関心・意欲・態度に関する項目を評価している。」が昨年より9.6%上がっており、授業中の意欲・態度に関する項目を概ね評価できている。 ○ 番号10の「机間指導で、作業の様子やノートの記述を個別に確認している。」は、昨年と同じであり、概ね確認できている。 ● 番号11の「1時間の授業ごとに、めあて(主眼)が達成できた児童と、達成できなかった児童を記録している。」は、昨年同様61.1%ととても低い評価である。児童の観察や記録については、目視による観察はできているものの、複式学級であるということから時間に余裕がなく、記録として残せていない状況がある。今後は、簡単に記録が残せて、集約ができるような様式やスタイルをつくっていく必要がある。また、日々の目視による観察を通して、中・長期的に見たときの変容や成長などを客観的な記録(数値など)として残していかなければならないし、細かく検証していく必要がある。
授業中の工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> ○ 番号12から17までの授業中の工夫や配慮については、80%以上であり概ねできている。 ● プログラミング学習を取り入れているが、複式学級における授業の効率化を図るため、ITC器機(電子黒板、タブレット型パソコン、実物投影機、テレビ)やホワイトボードなどを積極的に活用し、使いこなしていく必要がある。
学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ○ 番号18の「教室の清掃や整理整頓を行い、学習環境を整えている。」では、今年度、リーダー性を発揮させるために、縦割り班活動で目標を決め、確実に反省を行ってきたので、学習環境は概ね整えられている。 ○ 番号19の「単元毎にこれまでの学習過程や記録を掲示している。」が昨年より6.7%上がり改善されつつある。しかし、学習している単元毎に、学習過程や記録を掲示することが十分ではない。複式学級のため、掲示場所が少なく限られていることもあるが、期間限定で廊下等も含め校舎内に掲示できるように、計画的に進めていくことが必要である。以前から掲示されているものの中には、色あせて古くなっているものがあるので、休業中などに掲示物を点検して張り替えたが、十分ではなくさらに整備していく必要がある。